

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	1) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03395 防災と建築	<p>建築には人命や財産を保全するという役割がある。東日本大震災やそれに伴う津波、阪神・淡路大震災などの巨大災害、あるいは都市型洪水などを事例に出すまでもなく、建築の歴史を振り返れば、地震や大火、風水害との戦いの積み重ねであったと言っても過言ではない。本科目では広く建築に係わる災害や事故を未然に防止する方策や、被害を軽減する方法について学ぶ。</p>	<p>レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていると評価する。</p>	<p>授業評価： レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで関連する情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。</p>
03386 建築デザイン論	<p>近代以降、デザインは「製造に先立ち形を造ること」と定義されている。これに従えば、建築デザインとは「施工に先立ち建築空間の形を造ること」と言えるだろう。建築デザイン論では、この「形」という面から建築を考えてみる。建築空間とそれを構成する建造物の形態について学び、どのようなデザイン手法によってこれらが造り出されていくのかを習得しよう。達成目標は、 (1) テキストを通読し建築デザインの手法についての基本概念を学ぶ。 (2) 建築を形態によって分析し、建築デザインの手法についての理解を深める。 (3) 建築デザインの持つ広範な可能性や問題点について考察する。</p>	<p>レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていると評価する。</p>	<p>授業評価： レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで全国の著名建築施設情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。</p>
03362 建築マネジメント概論A	<p>建物は、その空間に人がつどい、仕事や生活が営まれて場が生成されることで、初めて建築となる。本科目では、人と建築との関係を考え、そこでの活動に着目し、企画、設計の段階から運営、改変、廃棄を含めた時間の中でのマネジメント(主にストックマネジメント)を学ぶ。あわせて、多くの専門家が関わる企画・設計作業を統括するプロジェクトマネジメントの必要性を学ぶ。</p>	<p>レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行っていると評価する。</p>	<p>授業評価： レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、又は、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで全国のサステイナブル建築・コンバージョン施設情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。</p>
03351 建築造形A	<p>建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床といった建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつつただけでは美しく室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。</p>	<p>一人一人に丁寧にヒアリング・指導を心掛け、モノを作る意欲・楽しさを感じてもらおうように努めている。受講生に不合格者が居ない。</p>	<p>授業評価： 製作する量が多いことから、制作意欲が低減する傾向にある。早期に最終成果物イメージの掲示、アイデアを導くといふカッションの増加に努める</p>
03354 建築設計Ⅰ-a	<p>住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。</p>	<p>エスキスの回数を増やし、全受講生に対しこちらから席に向いて指導している。受講生に不合格者はいない。3日間で、学力が伸びていることを実感する。</p>	<p>授業評価： 作図の基礎・建築知識の少ない受講生が多く、授業内で、作図・スタディーの進め方、模型の作り方を講義する</p>
03356 建築設計Ⅱ-a	<p>地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。</p>	<p>最終成果物には、着彩すること、スケッチパース・ダイアグラムの提出を義務付けているが、全員工夫をして提出している。授業中の講義・エスキス回数を増やす工夫による効果である。</p>	<p>授業評価： 構造・エスキスの進め方に、弱いところがあり、わかりやすい講義の工夫、パワーポイントなど教材の工夫で改善を試みる。</p>
03358 建築設計Ⅲ-a	<p>計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設の設計課題に取り組む。「建築設計Ⅱ-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的條件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。</p>	<p>ワークショップ、現地調査により、共同作業・敷地・都市構造を読む力を養うことに成功している。</p>	<p>授業評価： 施設の複合化に対し戸惑う学生が多く、どのように取り組むか、わかりやすい教材を製作し、授業で使用する。</p>

03344 卒業研究 I	<p>在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。</p>	ゼミでは、丁寧な指導に心掛け、指導担当学生は、S評価、卒業研究展出展に選ばれた。	<p>授業評価: 丁寧に指導を行うが、長期戦の為、途中何度か、ペースが極端に落ちる傾向にある。いかに持続的に研究活動を促すがが課題であり、ゼミの回数を増やすこと、毎回ゼミの課題が提出図書に何らかに関連するように努める。</p>
03345 卒業研究 II	<p>在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。</p>	ゼミでは、丁寧な指導に心掛け、指導担当学生は、S評価、卒業研究展出展に選ばれた。	<p>授業評価: 丁寧に指導を行うが、長期戦の為、途中何度か、ペースが極端に落ちる傾向にある。いかに持続的に研究活動を促すがが課題であり、ゼミの回数を増やすこと、毎回ゼミの課題が提出図書に何らかに関連するように努める。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	1) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03361 ランドスケープデザイン	<p>ランドスケープデザインとは、土地 (land) に対する人間の働きかけの結果として立ち現れる知覚像 (scape) を、安全で快適、かつ文化的なものとするために行う創造的行為の総称である。庭園の歴史や豊かな意味を踏まえランドスケープデザインの背景と展開を理解し、地域の場所性を多様な視点で読み解き、環境との関係性を形づくっていくデザイン手法や理論を修得する。またランドスケープデザインの視座を持つことで、建築設計をより確かなものにする理念と技術を学ぶ。</p>	<p>ランドスケープデザインは建築などに比べれば比較的历史の浅い分野であるが、建築から環境までを包括するそのデザイン領域は近年特に重要度を増している。また建築史や都市史、庭園史なども関連が深く、その学習には折衷的で博物学的な知識が必要とされる。ひとつの科目としてだけで完結することが難しい科目ではあるが、都市や地域に関わる他の科目との連携のなかで学習できるよう工夫した点は、建築学科の中でのランドスケープデザインのあり方のひとつとして評価できるのではと考える。</p>	<p>授業評価: 包括的なデザイン分野に関わる学習のため、レポートの着眼点が多様である。出来るだけ広い視点で評価を行い丁寧に指導をすることが求められると考えている。また、オープン教室等でも丁寧に指導したい。</p>
03360 景観論	<p>日本や海外の農山漁村、都市の歴史的・文化的な景観の特徴や景観整備の手法や制度との比較など、様々な観点より景観論、景観デザインについて考える。景観とはなにか、風景とはなにか、から出発し、庭園の歴史も視野に納めながら、景観の分析手法や評価法、関連する制度など技術的内容まで幅広く学ぶ。</p>	<p>景観論とランドスケープデザイン、都市計画学と地域計画学は通信教育で建築を学ぶ学生が環境や都市、地域から造形、建築を考える視座を持つための重要な科目群である。全てが選択科目であるためこの4教科全てを履修する学生は多くないが、そのなかでも基本となる科目として履修者が多い科目である。そのため多少の重複を含め他の科目に関わる手がかりを持たせることで、建築を「外から考える」重要性の学習に関して、通信科目として貢献できていると考える。</p>	<p>授業評価: レポートの内容が筆者の主観にとどまり、また景観について焦点が絞られていない記述の多く見られる。レポートとしていかに客観性を併せ持たせるか、また学習者の生活の場にレポートの成果をいかに還元させるか、講評やオープン教室等での指導を工夫したい。</p>
03383 都市計画学	<p>本科目では、20世紀の近代都市計画の流れを学んだ上で、我が国の都市計画の制度や役割、技術を理解する。主に日本、及び欧米の都市計画の系譜をたどり、都市の要素としての建築を制御し、望ましいとされる都市の姿を実現するために考え出された、土地利用や交通計画、各種建築・都市施設の計画について学習する。また、こうした計画の技術・手法について、建築、街区・地区・地域という様々なレベルから体系的に理解する。そして現代の社会環境において都市計画が果たす役割や問題点を探り、建築設計・計画に都市計画・都市デザインの視点を持つことの重要性を学ぶ。なお建築技術教育普及センターの判断により、建築士試験の分野が「その他」に変わった。</p>	<p>社会人が主体の通信教育では学生の地域での日常生活や仕事と学習内容の関連を理解することが重要である。学習者になじみのある都市を取り上げ、都市計画学の基本を学ぶことで学習者の生活環境の形成のしくみが理解でき、他の科目も含めての学びと自らの経験とを接続し、建築や都市についてのより深い理解に繋がる手がかりが提供できていると考えられる。また近代都市計画の概要を学ぶことで健在の建築、都市の課題や位置づけについても理解が進むと考える。</p>	<p>授業評価: 歴史については文献調査が、また事例として取り上げた都市についてのレポートでは現地や資料調査が欠かせないが、Webでの資料収集のみにとどまる学生の少なくない。オープン教室、その他で調査方法についてもアドバイスが充実できるよう工夫したい。</p>
03399 都市計画学	<p>本科目では、20世紀の近代都市計画の流れを学んだ上で、我が国の都市計画の制度や役割、技術を理解する。主に日本、及び欧米の都市計画の系譜をたどり、都市の要素としての建築を制御し、望ましいとされる都市の姿を実現するために考え出された、土地利用や交通計画、各種建築・都市施設の計画について学習する。また、こうした計画の技術・手法について、建築、街区・地区・地域という様々なレベルから体系的に理解する。そして現代の社会環境において都市計画が果たす役割や問題点を探り、建築設計・計画に都市計画・都市デザインの視点を持つことの重要性を学ぶ。なお建築技術教育普及センターの判断により、建築士試験の分野が「その他」に変わった。</p>	<p>社会人が主体の通信教育では学生の地域での日常生活や仕事と学習内容の関連を理解することが重要である。学習者になじみのある都市を取り上げ、都市計画学の基本を学ぶことで学習者の生活環境の形成のしくみが理解でき、他の科目も含めての学びと自らの経験とを接続し、建築や都市についてのより深い理解に繋がる手がかりが提供できていると考えられる。また近代都市計画の概要を学ぶことで健在の建築、都市の課題や位置づけについても理解が進むと考える。</p>	<p>授業評価: 歴史については文献調査が、また事例として取り上げた都市についてのレポートでは現地や資料調査が欠かせないが、Webでの資料収集のみにとどまる学生の少なくない。オープン教室、その他で調査方法についてもアドバイスが充実できるよう工夫したい。</p>
03351 建築造形A	<p>建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しく室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。</p>	<p>この科目は学科創設当時からシラバスが維持されてきており、学科の方針を体現する基本的な科目である。シラバスにそって、図面を用い複数回の課題に対して造形で答えるという方針は一定であるが、授業の進め方は担当教員によりアレンジされ、その幅が広いことも特徴のひとつである。また授業内課題により、制作と並行して学生と教員との対話が続けられることもその特徴のひとつであり、個々のスキルに幅のある社会人がそれぞれの深さによって学習を進められることは評価できる内容であると考えられる。</p>	<p>授業評価: 本科目は初學者の履修が多いが、調査によればこの科目での教員とのやり取りが自らの変容の出発点となる学生がいる点も注目される。取り組みやすい内容でありながら同時に深い気付きが得られるように、課題のバリエーションや進め方の工夫を進めていきたい。</p>

03354 建築設計Ⅰ-a	住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。 この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。 高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。	この科目では、設計に先立ち将来の生活のイメージして文章化してもらい、それを設計シートとして学生間で交換することにより、互いに施主と設計者という二つの立場を学べるように工夫した点は評価できると考えている。また事前学習を活用し、現時点の設計スキルだけでなく、主に戦後の住宅史を概観しながら通時的な学習を可能としている点も、限られたスクーリングの機会を活かす上で有効と考える。	授業評価: 作図の基礎・建築知識の少ない受講生が多く、授業内で、作図・スタディーの進め方、模型の作り方を講義することはもちろんであるが、どうしてもnB+LDKのタイプに陥りがちな設計を、出発点に立ち戻って熟慮させるよう、さらに工夫していく予定である。
03356 建築設計Ⅱ-a	地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画、設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。	規模的にはそれほど大きくない施設の設計を題材に、コンセプトの立案と造形とを連動させて考えるプログラムを用意した点、また事前課題を活用してコンセプトとはどのようなもので、どのような役割があるのかを理解させるように工夫している点は学習の効果に有効に繋がっていると考える。	授業評価: 設計演習では建築設計Ⅱ-aあたりから学生が自主的に判断して成果物をまとめる割合が増え、スクーリングの時間内にまとめるハードルがあがってくる。基本的な作図情報などは、今後Webを活用したオンデマンドでの資料提供などでカバーしていきたいと考えている。
03358 建築設計Ⅲ-a	計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設の設計課題に取り組む。「建築設計Ⅱ-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的な条件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。	公共的な施設の設計に取り組むということを実感するために、この科目ではまず最初は施設を利用する住民の立場で施設のあり方を考えるというステップを、ワークショップなどを活用しながら体験する。次のステップでは発注者、そして建築家の立場になり、先のステップの成果を実現する設計に取り組む。最後のプレゼンテーションのステップでは、発表者は設計者として、他の学生は地域住民として対話を行なうというアクティブラーニングでの学習を取り入れた点は評価できると考える。	授業評価: 社会人は、住民の立場での検討は比較的スムーズに進められるが、その結果を形として示すステップで立ち止まることが多い。単に図面がまとめられるということ以上に、課題を造形で解決しプレゼンテーションするというステップを支援する仕組みを、継続している社会人の設計教育支援の研究成果からもフィードバックしていく予定である。
03344 卒業研究Ⅰ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	卒業研究は通信科目(卒業研究Ⅰ)と面接科目(卒業研究Ⅱ)の組み合わせで、約半年をかけて進められる。このうちオリエンテーションから発表までの間の研究を支える部分が通信科目(卒業研究Ⅰ)であり、通信科目ではあるが希望者にゼミ形式での指導を月1回程度開催している。このゼミはオンラインでも参加可能であり、研究室に常時属さない社会人が研究を進めるしくみとしては一定の成果が上がっていると考える。	授業評価: 現在、専任教員と非常勤講師がベアになり5~10名のゼミを運営しているが、専任がなかなか常時指導に入れない点は、今後研究成果でもあるWeb上のポートフォリオなどを活用してカバーしていきたいと考える。また設計に偏りがちな研究のバリエーションを増やし、選択する学生を増やしていくことも課題である。
03345 卒業研究Ⅱ	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形とい	卒業研究は通信科目(卒業研究Ⅰ)と面接科目(卒業研究Ⅱ)の組み合わせで、約半年をかけて進められる。このうちオリエンテーションと2回のプレゼ	授業評価: 造形学部であることから、発表はパネルを使ったプレゼンテーション形式で行なっているが、今後

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	1) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03376 構造力学Ⅰ	建築構造力学の基礎的な計算ができるようになる。テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、理解を深める。最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身につけることを目標とする。 建築物は、自重以外にも風や地震、積雪などといった自然の外力を受ける。これらの外力に対して建築物は安全である必要がある。それを確かめるために行われるのが構造設計である。本科目は、その構造設計を行う上で必要となる構造力学について学ぶ。力のつり合いや静定構造物と不静定構造物の違い、構造骨組・荷重の種類、理解から始まり、静定構造物の反力・応力計算へと学習を進める。さらに部材断面形状における力学的特性や応力度、各種部材の設計、梁の変形そして基本的な不静定構造物の計算についても理解する。	面接科目である構造力学Ⅰ演習と連携して学習が進められるように工夫している。また学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすしている。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問はeラーニングサイト・通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	レポート添削や試験採点を見ると理解度に差がみられた。計算が苦手な学生がいるので、分かりやすい教材作成が必要である。どこでつまづいているかなども今後確認していきたい。またeラーニングやオンライン相談(Zoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。
03367 構造力学Ⅰ演習	建築構造力学の基礎的な計算ができるようになる。テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、説明を聞きながら理解を深める。最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身につけることを目標とする。 「構造力学Ⅰ」の学習内容を補完する科目として、面接授業によって講義を行い、構造力学の基礎的な知識を修得する。力学の基礎的な考え方、静定構造物と不静定構造物の違い、各種静定構造物の反力・応力の計算方法、断面の力学的性質、さらに部材の断面設計法や梁の変形について、テキスト等の演習問題を通して解説する。手計算による様々な解法を学ぶことで、構造物に働く力の流れや大きさ、変形状況を論理的かつ感覚的に理解し、構造設計を行う際に必要となる力学の素養を身につける。	構造力学Ⅰ演習は面接科目であり、直接、学生へ説明することができる。計算が苦手な学生もいるが、3日間の集中授業を通して分かりやすい授業を心がけている。コロナ禍でオンデマンドコンテンツも作成した。対面と遠隔授業の両方の良さを知ることができた。対面と遠隔授業で様々な意見があるので、今後それらの意見を参考に、さらに分かりやすい授業内容を工夫していきたい。	対面授業と遠隔授業で様々な意見があった。対面授業では授業がとて分かりやすかったというアンケート評価もあるが、最終の課題を行うと結果に大きな差がみられた。授業を聞いていると何となく理解できているようだが、課題を行うと途中でつまづいているケースがある。どこで間違えているかをしっかりと確認できるような復習教材が必要と思われる。遠隔授業ではオンデマンドコンテンツを各自で視聴し、最終課題の提出とした。やはり最終課題の結果に差がみられるが、対面授業とはまた異なるよい面もあると感じた。さらにオンデマンドコンテンツの改善と充実をはかっていきたい。
03377 構造力学Ⅱ	実際の建築物に近い不静定構造物についてたわみ角法や固定モーメント法などの各種解法を用いて応力計算方法を習得することを目標とする。不静定構造物の応力算定について高度な計算知識と理論の修得を必要とするたわみ角法や固定モーメント法などの解法により計算する。また構造物の塑性変形や崩壊メカニズム、保有水平耐力について理解する。	構造力学Ⅰに比べて難解な内容であるが、レポートや試験結果をみるとおおむねテキスト学習ができているようである。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問はeラーニングサイト・通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	テキストから学習はできているようであるが、構造力学Ⅰのような学習指導書があればより理解が深まると思われる。また質疑についてもeラーニングやオンライン相談(Zoom)などで質問しやすい機会を増やしたいと考えている。

03384 建築法規	建築物をつくる上で必要となる建築関係法規の基礎知識を習得し、建築設計や施工、監理などで活用できる能力を身につけること、さらには将来、建築士試験の資格取得のベースとなる法令知識を養成することを目標とする。 わが国で建築物を建てる場合には、様々な法律が関わるが、建築物自体の基準を定めた基本的な法律として建築基準法がある。本科目では建築基準法を中心として、都市計画法、建築士法、その他の関連法令を体系的に学び、主要となる法令の目的や制限内容を理解する。図解テキストを用いながら法令の要点をおさえ、法令集より関連法令を調べる力をつける。そして建築士等の問題に取り組み、法令の理解をより深める。	学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問はeラーニングサイト・通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	レポート内容や試験結果をみると学生の理解度に差がみられるため、学習指導書の内容をさらに工夫していきたい。また質疑についてもeラーニングやオンライン相談 (Zoom) などで質問しやすい機会を増やしたいと考えている。
03364 卒業研究 I	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることを目標とする。 在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	専任教員と非常勤講師が連携して卒業研究の指導・運営を行っており、最終的には卒業研究展の展覧作品として優秀作品を輩出できている。通信教育の特性を活かして、面接以外でグループメールやeラーニングサイトなどでネット環境をうまく利用できている。コロナ禍でZoomを活用したオンラインでのゼミや卒研審査会を行うことができ、かなりオンライン授業が進展できたと感じる。	約半年間の卒業研究であるが、学生によって進捗状況に差が見られ、途中でリタイアする学生もいる。進捗状況の確認を増やし、途中であきらめることなく続けられるよう支援の強化をはかっている。遠方の学生も多いので、引き続きZoomなどのオンラインミーティングも行い最終作品まで完成できるように指導方法を考えていく。
03365 卒業研究 II	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることを目標とする。 在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	専任教員と非常勤講師が連携して卒業研究の指導・運営を行っており、最終的には卒業研究展の展覧作品として優秀作品を輩出できている。通信教育の特性を活かして、面接以外でグループメールやeラーニングサイトなどでネット環境をうまく利用できている。コロナ禍でZoomを活用したオンラインでのゼミや卒研審査会を行うことができ、かなりオンライン授業が進展できたと感じる。	約半年間の卒業研究であるが、学生によって進捗状況に差が見られ、途中でリタイアする学生もいる。進捗状況の確認を増やし、途中であきらめることなく続けられるよう支援の強化をはかっている。遠方の学生も多いので、引き続きZoomなどのオンラインミーティングも行い最終作品まで完成できるように指導方法を考えていく。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	1) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03108造形学原論	全ての造形作品は、主に形体や色彩といった造形的な要素を何らかの意図をもって空間の中に構成したものである。造形作品理解の基本は、その作品において「どのような要素が用いられているか」「どのように構成されているか」このふたつである。この科目では、基本的な構成原理を応用し実際の造形作品がどのような構成に基づいてどのような要素を配置し、組み合わせているのか、さらにはそれがどのような意図に基づくものであるのかを分析的に考察できる力の習得を達成目標とする。	当該科目は、通信教育部通信科目の中では他教科に先駆け、2016年度から主教材として動画教材を中心としたデジタル教材による授業を実施しています。造形作品の構図、構造分析という抽象的で難易度の高い課題に、対面の指導ではない通信授業で取り組ませるものであるが、提出されたレポートの質を見ると動画教材による学習が功を奏していることがうかがえます。	概ね高い学習効果が得られていると考えますが、さらに学習成果を高めるため考察対象の作例を選択する上でポイントをまとめた動画教材を追加することを考えています。
03151デッサン基礎	・作品発想の手法、伝達の手法として、頭の中で造形を思い描き、それを表現できるデッサンの技術、考え方を習得する。	対象を観察し正確に再現の描画をするという一般的なデッサンの授業の方法に捉われないこと、築学という分野における造形基礎力養成のためのデッサンのあり方を独自に考案した授業です。対象再現的な表現ではなく、ひとつは造形物を構想するためのデッサン、もうひとつは建築の実務の中でコミュニケーションのために必要なデッサンというふたつの力を養成するための独自の課題を実践しています。また透視図法を理解させるためを使ってデッサンさせる手法もオリジナルの教授法も取り入れています。建築学科に特化したデッサン教育としては効果の高い授業であると自負しています。 2020年度については新型コロナウイルス感染症予防対策として対面授業を取りやめオンラインによる代替授業を行なった。急遽であったが動画教材を含むオンライン教材を作成した。教材内論についてはわかりやすいと好評であり、また内容がわかりにくいといったような質問もなかった。概ね適切な授業運営が行えたと考えます。	2020年に作成したオンライン教材は概ね適切で効果のあるものであったが、双方向性が確保されていないのが難点である。2020年度は新型コロナウイルス感染症予防対策として急遽の対応であったため、許容されるものであったが、今後オンライン教材を積極的に展開していくにあたっては双方向をいかに取り入れ、どのように活用していくかを模索していく必要があると考えます。
03152立体造形基礎	・素材の特性を活かした造形表現ができるようになる。 ・発想の手法を理解し多様な造形を表現できるようになる。 ・テーマ、目的、表現意図に応じた立体造形表現ができるようになる。 ・今後の建築造形学習の基礎となる発想法や技法を習得する。 ・自身の作品について発表できるようにする。	当該科目は創造的活動の発想プロセスを理解し経験させることに重点を置いた科目であり、概ねその目的は達成できていると考えます。作品の良さ、味わいについても指導していますが、これは頭で理解するだけではなく造形作品を多く味わうことによって感性を磨くことが必要になってきます。これを3日間の短い期間の中でどう身につけさせるかという点についてはまだ十分な指導ができていないと考えます。 2020年度については新型コロナウイルス感染症予防対策として対面授業を取りやめオンラインによる代替授業を行なった。急遽であったが動画教材を含むオンライン教材を作成した。教材内論についてはわかりやすいと好評であり、また内容がわかりにくいといったような質問もなかった。概ね適切な授業運営が行えたと考えます。	2020年に作成したオンライン教材は概ね適切で効果のあるものであったが、双方向性が確保されていないのが難点である。2020年度は新型コロナウイルス感染症予防対策として急遽の対応であったため、許容されるものであったが、今後オンライン教材を積極的に展開していくにあたっては双方向をいかに取り入れ、どのように活用していくかを模索していく必要があると考えます。

03153デザイン基礎	<p>達成目標 造形作品構想の手法、原理とプロセスを理解し実践することができるようになる。 造形表現の基本的要素である色彩、形体、構成の表現力と理解効果を考えながら平面および立体構成作品を制作することができる。 グリッドシステムを活用し効果的に要素をレイアウトすることができる。</p>	<p>授業では3日間で7つの課題に取り組みせています。数としては多いのですが、前の課題で制作した作品ベースに次の課題に展開するというように第1課題から第2課題まで全て一連の流れとなってきました。このように関連を持ちながら展開していく課題は、発想のプロセスを理解させ創造性の高い活動とはどのようなものであるかを理解させ、体験させるために考案した授業課題ですが、高い効果を発揮していると自負しています。2020年度については新型コロナウイルス感染症予防対策として対面授業を取りやめオンラインによる代替授業を行なった。急遽であったが動画教材を含むオンライン教材を作成した。教材内論についてはわかりやすいと好評であり、また内容がわかりにくいといったような質問もなかった。概ね適切な授業運営が行えたと考えます。</p>	<p>2020年に作成したオンライン教材は概ね適切で効果のあるものであったが、双方向性が確保されていないのが難点である。2020年度は新型コロナウイルス感染症予防対策として急遽の対応であったため、許容されるものであったが、今後オンライン教材を積極的に展開していくにあたっては双方向をいかに取り入れ、どのように活用していくかを模索していく必要があると考えます。</p>
03281環境造形基礎A	<p>デッサンを学習する目的を理解する。 デッサンで使用する用具を理解する。 線、面、明暗といった基本的な要素の描写のしかたを理解する。 平面の紙の上に立体感、空間感を表現できるしくみを理解する。 形体や明暗、位置関係の観察方法を理解する。</p>	<p>デッサン本制作に至るまでの基礎的な技術、理解を高めることに重きをおき、初學者でもステップバイステップでデッサン表現に臨めるように工夫した課題構成となっています。実技は文字や図表よりも実際にやってみせることのできる動画教材が有効であると考え通信教育部通信科目の中で最も早い2014年度から動画教材を中心としたデジタル教材による授業を実施しています。通教オンラインeラーニングサイトでは単に教材の発信だけではなく、随時学生作品を参考事例としてアップしたり、添削の中で気づいた多くの学生に共通する欠点に関するフィードバックを行うなど、随時情報発信できるオンライン学習の利点を生かした授業を行ってきました。</p>	<p>課題添削の中で得た知見を基に追加の動画教材を作成するのを感じています。</p>
03282環境造形基礎B	<p>美しい造形物とは何かを理解・制作でき、将来のデザイン・造形活動に生かすことが出来る。</p>	<p>デザイン学科募集停止に伴い様々な授業を前担当者から受け継ぎ、自身の教育理念に基づき新しい授業内容に改定してきたが、当該科目だけは今まで前担当者の実施した内容のまま担当している。通信科目において直接対面で指導することができない状況で作品を政策させることは簡単ではありませんが、特に立体造形物や材料や道具のつか方など初めて取り組む学生には困難が伴っていると考えます。現段階でもそのあたりの指導には不足を感じています。</p>	<p>現在の内容はデザイン学科があった時の美術を学ぶ学生もしくは美術教員になる上での教材研究的な意味合いのある内容でしたが、現在当該科目を受けているのは建築学科の学生のみです。他の私の担当科目同様建築学科学生にとってより有効な授業内容に改定していきたいと考えています。</p>
03283環境色彩学	<p>物理的、生理的側面から色彩を理解することができる。 色彩の分類、整理、体系化について理解することができる。 色彩の感情効果、生理的作用、配色原理を理解し、作品制作に活用することができる。</p>	<p>様々な平面造形作品から配色をサンプリングさせ、それをテキストの理解に基づき分析、考察させるという学習内容は、知識面のみではなく、作品を構想する力を養うのにも有効であると自負しています。当該科目では2016年度から動画教材を作成し副教材として使用しています。</p>	<p>随時情報発信可能なオンラインの利点を生かし、学生のレポート添削を通じて必要と思われる情報を随時発信していく必要があると考えています。</p>
05310造形表現演習	<p>保育園における様々な活動の様子を、その活動内容に応じた適切な描画表現し作品とするための、技法を習得し、考え方を理解することを目標とします。</p>	<p>当該科目は保育士受験対策としての内容も含んでおり、受講者はほとんど絵の経験がない者が多く、絵に苦手意識を持つ者も少なくありません。そうした学生に対し紙製のモデル人形を使ってポーズを学ばせるなど工夫を凝らした授業を展開しています。当該授業は2日間の対面授業の後11～16コマに相当する部分をオンライン学習で行なっていますが、提出された作品に対し言葉だけの評ではなく、グラフィックソフトを使い画像を編集して指導している。これは対面の授業では困難、オンライン授業ならではの特性を生かした効果的な指導であると自負しています。2020年度については新型コロナウイルス感染症予防対策として対面授業を取りやめオンラインによる代替授業を行なった。急遽であったが動画教材を含むオンライン教材を作成した。教材内論についてはわかりやすいと好評であり、また内容がわかりにくいといったような質問もなかった。概ね適切な授業運営が行えたと考えます。</p>	<p>当該科目は従前より通教オンラインeラーニングを使い、双方向の活動も行なっている。これに2020年に作成したオンライン教材を活用した授業は今後も積極的に活用しているものと考えます。</p>
U211004コミュニケーション・スケッチ	<p>達成目標 ① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。</p>	<p>2020年度は新型コロナウイルス感染症予防対策として全てオンラインで実施することとなり、急遽テキストを作成した。テキスト課題配信および学生からの提出は全てユニバーサルバスポートで行なった。初めての事態であり、対面の授業に対して授業効果が劣るのはやむを得ないと思うが、本科目で求める成果を得ることができ、制限を伴う状況の中であることを踏まえると概ね適切な授業が行えたものとする。</p>	<p>オンラインでの授業は今後も可能性がある。更に授業内容を精査するとともに、双方向性を確保した授業のあり方を検討していきたい。</p>
U211003コミュニケーション・スケッチ	<p>達成目標 ① スケッチに必要な技法を正しく使うことができる。 ② アイデア立案の流れを図解して説明することができる。 ③ 空間や立体などを紙や平面に書き表して説明することができる。</p>	<p>2020年度は新型コロナウイルス感染症予防対策として全てオンラインで実施することとなり、急遽テキストを作成した。テキスト課題配信および学生からの提出は全てユニバーサルバスポートで行なった。初めての事態であり、対面の授業に対して授業効果が劣るのはやむを得ないと思うが、本科目で求める成果を得ることができ、制限を伴う状況の中であることを踏まえると概ね適切な授業が行えたものとする。</p>	<p>オンラインでの授業は今後も可能性がある。更に授業内容を精査するとともに、双方向性を確保した授業のあり方を検討していきたい。</p>

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	1) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
------	-----------------	---------	--------------

03289	リサーチ演習	建築計画や都市計画のための適切な情報や資料を探ることができる。 量的研究と質的研究のために大量統計調査と少数精密調査を理解し使い分けができる。 目的に応じた調査方法と分析方法を用いることができる。	比較的よくできたレポートが多かった。難易度の高い科目であるが、頼りになる参考文献も多いので学習の姿勢がそのままレポートに直結する科目でもあり、そのように指南することができた。	専門性の高い内容となっている為よくできたレポートが多い一方で基本的な質問も散見された。何かしらの補助教材が必要かも知れない。
03388	CAD I (面接)	立体的なインフィル空間に与条件を満たし提案性のある設計として2次元作図により建築図面として表現できること。	ユニテ・ダビタシオンをテーマとした課題の設定を行うことで学生が課題に興味を持ちやすい工夫を行いました。 事前学習として、お越し絵図の要領で組み立てられるペーパークラフトのユニテ・ダビタシオンを用意し、居室の空間的理解をしてからスクーリングに臨めるよう工夫しました。 配布資料としてユニテ・ダビタシオンの概要を示したものを、1/100でCADでトレースした図面、エスキス用紙を配布し、取り組みやすい工夫をしました。	年度途中で指定テキストが絶版となりました。新たなテキストを指定し初めてのスクーリングでしたので2種類のテキストが混在して指示(何ページを見よ、など)も大変しづら状況でした。 新たな教材を用意しスムーズな進行を目指せばと思います。 受講者過多で運営が困難な回がありました。年間を通じて平準化した受講機会が提供できることが望まれます。
03389	CAD II (面接)	建築を構成する主要素である「壁・柱・階段・ブリッジ」を用いて、奥行きや高さに関する領域を、認識・操作できるようになること	抽象的な建築条件を設定し、造形的な条件を設定することで、既成概念の外へ向かわせる実践を行なった。 事前学習として半野外空間を有する建築の事例調査を課すことで、スクーリングでの取り組みに行かせる工夫を行なった。 また事前学習を授業の中で互いの調査結果を発表し情報を共有することで多くの建築事例を知る機会を設けた。 予習復習しやすいようCAD操作のオンデマンド教材をeラーニングに用意した。	CADのバージョンアップや機能の変更、追加に伴って知識情報のアップデートと、eラーニングコンテンツのアップデートについてさらなるスピード感が求められる。
03390	CAD III (面接)	3次元CADによる立体的な建築表現に加え、マテリアルによるリアリティある表現ができること。 与条件を読み解き、複数階の建築としてまとめて提案できること。	3次元CADを用いた設計と表現の応用としてCAD II から発展的な内容を盛り込むことを工夫した。 事前学習では平面図及び断面図を読み解いて外部空間との一体感を設計に取り込む工夫について学ぶこととした。 またCAD I 及び CAD II のスクーリングを受講してから時間が経っていたり、スケジュールの都合でCAD II を受講できずにCAD III の受講に臨む学生の為にCAD I 及び CAD II の振り返りも触れていながら応用までできるよう時間の配分に気を遣った。	内容が盛りだくさんで時間が不足しがちである科目となるので、復習もしやすいようさらなるeラーニングのオンデマンドコンテンツの充実が望まれる。
03344	卒業研究 I	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室などの機会を利用してゼミを開催しているが、遠方の方は参加が難しい傾向にある。もう少しeラーニングなどを活用した機会の提供が望まれる。今年度においてはZoomの活用が顕著であった。
03345	卒業研究 II	卒業研究を通して、設計者、技術者、研究者として必要となる洞察力や表現力を身につけることができる。	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。	オープン教室などの機会を利用してゼミを開催しているが、遠方の方は参加が難しい傾向にある。もう少しeラーニングなどを活用した機会の提供が望まれる。今年度においてはZoomの活用が顕著であった。

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	1) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03371 建築計画学 II	本科目では公共的な施設についての建築計画を学習する。地域や社会に開かれた、公共性を持った建築物としては、学校、図書館、美術館、博物館、病院、福祉施設、コミュニティ施設、事務所などの施設がある。また複数の用途・機能を併せもった複合施設もある。これらの施設は建築単体として成立するものではなく、社会のしくみを反映し、地域の生活や文化との関わりの中で計画されるものである。そのため、周辺環境に対する配慮や社会的寄与が求められる。こうした建物の計画の理論と方法論を代表的な事例などを参照しながら学習する。	レポート作成時に学習した建築計画の基礎知識が、終末試験の答案に反映されており、レポートの添削が適切に行われていると評価する。	調べたこととまとめた記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や計画手法に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識する。
03398 現代建築論	現代建築のデザインは多様であり、一瞥で把握できるものではない。これを理解するために必要な、建築に関する広範な知識を身に付けることが第一の目標である。 基礎を身に付け建築を見る目が養われれば、現代建築が分かるようになり、楽しく感じられるようになる。日常的に最新の建築デザインに触れる習慣を身に付け、その中で興味を持った建築について調査研究を行なうのが、第二の目標である。	レポートの題材として取り上げる建築作品や建築家に多くのバリエーションが見られ、受講生が本授業を通して現代建築への興味や知識を広げることが出来ていると評価する。	調べたこととまとめた記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や建築家に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識する。
03388 CAD I	CADとは何か。建築のみならず多くの産業分野に始まり、あらゆるところで利用されるようになった2次元、3次元の描画ツールである。1970年代後半に考案されてより目覚ましい発展を遂げてきている。建築分野では正確性が重要視され、Computer Aided Drafting の位置づけであったが、近年は Computer Aided Design という本来的な使われ方がなされるようになり、ツールとして一般的に欠かせないものとなった。 CADの基本操作の修得のみに留まらず、立体的思考に基づく設計課題に対して各自のアイデアを2次元CADでまとめていく。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができています。受講生の技量や考えている設計に応じた、個別に丁寧に指導することを心掛けており、受講生に不合格者は出ていない。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みる。

03389 CAD II	「CAD I」で学んだ2次元CADは平面的な図面作成が主たる目的であるが、3次元CADは模型を作るように立体的表現に適している。2次元CADの操作・作図方法との違いを確認しながら、3次元CADならではのモデリング(形を作る)、テキストチャマッピング(質感の指定)、ビュー(視点の設定)、レンダリング(陰影計算)といった機能を理解し、課題制作を通して基本的な3次元CADの操作方法を修得する。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができる。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧な指導することを心掛けており、受講生に不合格者は出していない。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みる。
03390 CAD III	「CAD II」から更に内容を進展し、3次元CADの建築デザインにおける様々な活用方法を、設計課題を通して理解する。設計ツールとしてだけの3次元CADの活用ではなく、形態や空間を構成するための立体的表現ツールあるいは第三者へプレゼンテーションやコミュニケーションツールとしての活用も考え、建築デザイン行為における3次元CADの利便性について理解する。	設計課題をこなしながら、CADの操作を学ぶスタイルにより、効率的にCADの学習に取り組むことができる。受講生の技量や考えている設計案に応じて、個別に丁寧な指導することを心掛けており、受講生に不合格者は出していない。	学生が自力でCAD操作を習得でき、授業後もCADを活用できるように、操作解説を分かりやすくまとめた教材を工夫することで改善を試みる。
03351 建築造形A	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、一人一人のテーマに対して丁寧な指導を心掛け、受講生は全員合格し、2名の学生が卒業研究展の出展者選ばれた。	卒業研究は長期間にわたるため、途中で計画案の方向性や作業に行き詰まる学生が多い。ミーティングリストなどを活用し、段階的なアドバイスや、参考になる情報の提供を行うことで、そうした行き詰まりの状況を乗り越えることを促す。
03354 建築設計 I - a	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身につける。	ゼミでは、一人一人のテーマに対して丁寧な指導を心掛け、受講生は全員合格し、2名の学生が卒業研究展の出展者選ばれた。	卒業研究は長期間にわたるため、途中で計画案の方向性や作業に行き詰まる学生が多い。ミーティングリストなどを活用し、段階的なアドバイスや、参考になる情報の提供を行うことで、そうした行き詰まりの状況を乗り越えることを促す。
03356 建築設計 II - a	建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつつただけでは美しく室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。	丁寧なヒアリング・指導を心掛け、かたちをつくる楽しさを感じてもらえるように努めている。受講生に不合格者は出していない。	学生が造形のアイデアの勘所を理解できるよう、既存の建築作品の造形のプロセスを整理した教材を用意することで改善を試みる。
03358 建築設計 III - a	住宅は、そこで子供を育て、また家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる。地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。	数回の対面のエスキスをを行い、学生の発想を進展させられるよう丁寧な指導を心掛けている。受講生に不合格者は出していない。	建築の基礎的な表現方法を理解してもらうために、図面の描き方、模型の作り方を指導する。
03344 卒業研究 I	地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設的设计を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また周辺環境に適した施設を計画・設計する。設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。	数回の対面のエスキスをを行い、学生の発想を進展させられるよう丁寧な指導を心掛けている。受講生に不合格者は出していない。	建築を3次元的に検討する方法を理解してもらうために、スケッチ、模型、3D CADを用いた検討方法を指導する。
03345 卒業研究 II	計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設的设计課題に取り組む。「建築設計 II-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的條件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。	数回の対面のエスキスをを行い、学生の発想を進展させられるよう丁寧な指導を心掛けている。受講生に不合格者は出していない。	敷地や、既存の建築作品のリサーチを行い、作品に適切にフィードバックを行うことができるよう、重点的に指導する。